

# 森林やまがた

No.185

2020. 1

フォレスト  
サポートーズ



山形県森林協会  
は、『美しい森林  
づくり推進国民運動』  
を推進し  
ています。

## モリ 第5回 全国森林ノミクスサミット in 山形



### 目 次

新年のご挨拶	2
令和元年度川村造林記念山形県林業賞	3
山形県林正連携ヨシシリーシアム研究会の開催	4
県民の森・源流の森の指定管理者の指定	4
『やまがた森林ノミクス産業展 in もがみ2019』開催	5
特 集	
林業事業体の経営体質強化を図る研修会	6
「やまがたの森づくり発表会」を開催しました	8
フォレスト通信	
目標に向かって思いを新たに	9
みどりのページ	
東北・北海道地区の緑化功労者表彰	
奥山彰敏氏	10
郷土の名木・古木等保全事業の実施	10
子どもたちの未来の森づくり事業の取組み	11
特 集	
次世代林業サプライチェーンの最前線	12
普及情報	
森林技術者等技術向上 (ICT・低コスト化) 研修会開催	14
森の人紹介 伊藤和実さん・星川千枝子さん	15
西山杉とともに生活する ～西山杉を巡る見学ツアー～	16
おもてなしの心で ～西山杉製サイクルスタンド～	16
第33回山形県きのこ品評会開催	17
集材・搬出研修会を開催	17
みどりの少年団活動報告	18
令和元年度松くい虫防除研修会を開催	19
分収林造林契約の変更	20

(表紙写真は、第5回全国森林ノミクスサミット in 山形)



## 新年のご挨拶

農林水産部森林モリノミクス推進課長

齊藤潔

令和2年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろより本県の森林・林業・木材産業の振興に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は台風19号の豪雨により、本県も置賜地域を中心に甚大な被害が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

台風による林業関係被害額は県全体で8900万円となりましたが、県としましても、国をはじめ各関係機関と連携し、一刻も早い災害復旧に向けて、鋭意取り組んでまいります。

### ◆森林ノミクスの推進

県では、戦後の拡大造林政策で植林された人工林が利用期を迎える中、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー、森の恵み」として県民総参加で活用推進、人材の創出と地域活性化に繋げる「やまがた森林モリノミクス」を推進しており、県産木材の安定供給や再造林の推進、県産木材の率先利用、林工連携の推進、人材の育成など川上から川下までの施策を総合的に展開しております。これまでの成果として、平成30年度の木材生産量は51万m<sup>3</sup>に達し、令和2年度の目標である60万m<sup>3</sup>に向け順調に伸びているところであり、また、民間組織で構成する「山形県再造林推進機構」の基金制度と県の連携による再造林費の100%支援により、再造林率は取組み前の約3割から5割強に上昇しております。

県産木材の率先利用としましては、一般住宅を対象とした県産認証材を使用した新築建築物への定額補助を民間施設等に拡大したほか、県庁ロビー等の木質化に取組み、木のぬくもりを感じる空間を演出したところです。また、今年4月に完成予定の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村の建築材として、森林認証を受けた真室川県有林等の木材を県内のJAS認

定製材所、プレカット工場などで加工した材を昨年提供したところであります、競技大会を盛り上げるとともに、全国に山形県産材をPRし、地域林業の活性化に繋がることを期待しております。  
さらに人材の育成・確保の面でも、これまで農林大学校林業経営学科を卒業した14名が県内の林業事業体に就職するなど着実に成果が表れております。

### ◆森林経営管理制度

昨年4月に、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の確保を図る「森林経営管理制度」が施行されました。新たな制度では、所有者が自ら森林の経営管理ができない場合に、市町村が森林所有者の意向を確認し経営管理権の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に集積・集約化するとともに、経済ベースでのらない森林等については、森林環境譲与税も活用し、市町村が公的に管理を行っていくものです。

県では昨年、新たな制度を効果的に運用していくための情報共有や意見交換、関係者間の合意形成を図る山形県森林管理推進協議会と地域の実情にあつた課題等への対応を協議する地域協議会を設置しました。また、意欲と能力のある林業経営者の公募要領を定め、登録申請を受け付けているところであります。基準を満たす林業経営者については、順次公表してまいります。

森林環境譲与税を財源とした市町村における取組みは、初年度という事もあり、意向調査の準備作業（森林情報の把握、境界の立会等）や基金積立が多数を占めていますが、県としましては、新制度の本格運用により未整備森林が解消されるよう、引き続き、事業の実施主体となる市町村の支援や受け皿となる人材育成に取り組んでまいります。

今後も、林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、森林ノミクスに関する情報発信に努め、新たな制度も活用しながら、川上から川下までの総合的な施策を積極的に進めてまいりますので、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げまして、新年の御挨拶といたします。

## 令和元年度 川村造林記念山形県林業賞

### 阿部高雄氏 株式会社阿部製材所が受賞

#### ◆はじめに

本県林業の発展や振興に貢献した個人、団体をたたえる川村造林記念山形県林業賞の表彰式が、昨年11月26日に山形市のホテルメトロポリタン山形で行なわれ、吉村知事から表彰状と記念の盾が受賞者に授与されました。

本年度は、鮭川村長から推薦のあつた「阿部高雄氏」と、酒田市長から推薦のあつた「株式会社阿部製材所」が受賞されました。

#### ◆川村造林記念山形県林業賞とは

川村造林記念山形県林業賞は、本県の第23代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興・発展に貢献した個人、団体を対象に表彰するため、昭和39年に創設されました。

本賞は本県林業界における最高の賞であり、昭和40年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数は、個人61名、48団体となっています。

#### ◆阿部高雄氏（鮭川村）

市場での有利な取引に向け生産量を確保するため、平成12年に4名の生産者とともに鮭川村内で初の協業

による生産体制を構築した農事組合法人才ークファームの設立に尽力され、ナメコ栽培に特化した大規模生産施設と空調設備の導入により、安定的な生産と品質の確保、コスト削減を図り、大手スーパーとの直接取引を実現されました。

菌床ナメコの生産量は県内総生産量の3割を超える鮭川ブランドの一

層の向上と県産ナメコの流通拡大に貢献されております。

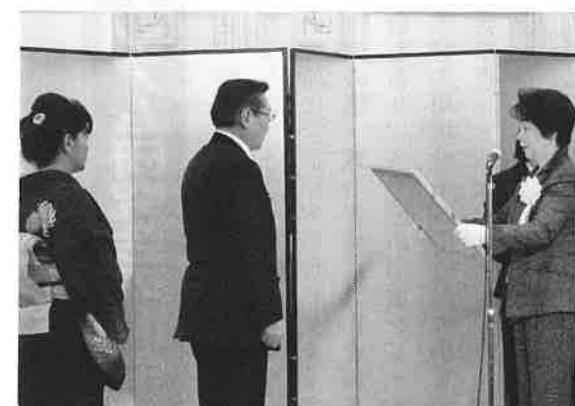
また、鮭川村菌茸連絡協議会長として、村の「木の子の日」の制定や村内の学校・保育所での「木の子の日給食」を主導し、さのこ食文化への意識醸成に寄与するとともに、県産きのこの消費拡大に貢献されました。

#### ◆株式会社阿部製材所（酒田市）

昭和20年の創業以来、地域振興に寄与するという経営理念を歴代社長が引き継ぎ、多くの製材工場で外材の取扱いが主流となつた時期も一貫して自社有林を含め地域材の活用に尽力され、地域材の生産・加工・流通の一貫体制を構築し、長年に渡り本県のトッププランナー企業として、林業木材産業の振興に貢献されました。

また、「協同組合やまがたの木乾燥センター」の経営を携わり、乾燥設備を持たない製材工場の製品も含め、地域全体での高品質で付加価値の高い製品の安定供給に貢献。

更に、社有林と隣接する私有林の集約化に努め、一体的に森林經營計画を作成し、効率的な路網配置と低成本施設により、地域所有者に販売利益を還元しております。



受賞した阿部高雄氏



受賞した株式会社阿部製材所（代表取締役社長の阿部知之氏）



吉村知事を囲んでの記念撮影

#### ◆おわりに

このたび受賞されました阿部高雄様、阿部製材所様に心からお祝いを申し上げるとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

# 山形県林工連携コンソーシアム研究会の開催

## ◆はじめに

山形県林工連携コンソーシアムは、林業、木材産業、工業、建築事業者及び研究機関等の連携による、森林資源を起点とした新しい技術や製品の開発を目的として、新用途開発、スマート林業、新素材の3つの部会による研究会を実施しています。

令和元年度においては、研究会の先進地視察として10月31日～11月1日にかけて、国の研究機関である茨城県つくば市の国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所を訪問しました。

## ◆森林総合研究所を視察

研究所では、「スマート林業の実現に向けた最新機械の開発状況」の講義や、「実験住宅」、「CLT関連施設」、「強度試験関連施設」及び「セルロースナノファイバー関連施設」の見学、また「木のお酒」の香り体験など、各部門ごとに研究員の先生に説明をいただきました。

現地では最先端の研究の現状を間近にして、技術的な課題や実用化の将来性など、業種ごとに質問が相次ぎ、時間を惜しみながらの見学となりました。また、意見交換会では、研究所の宮沢研究管理科長を交えて、研究の第一線の貴重なお話を伺う機会もあり、各業種の垣根をこえて、木材の可能性や課題等についての活発な意見・情報交換が行われ、参加した会員からは非常に有意義であった旨の意見が寄せられました。



【CLT関連施設見学の様子】

## ◆おわりに

研究会においては、今後も研究テーマとニーズに合わせ、より有意義な事業を実施してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

## 県民の森・源流の森の 指定管理者の指定について

令和元年度に募集しました山形県民の森及び山形県源流の森の指定管理者について、左記のとおり指定しましたのでお知らせします。

施設名	所在地	募集期間	指定した団体	指定期間
山形県 県民の森	山形市 南陽市 山辺町 白鷹町	令和元年 6月7日～ 7月5日	公益財団法人 山形県みどり推進機構 (現指定管理者)	令和2年 4月1日～ 令和7年 3月31日
山形県 源流の森	飯豊町	令和元年 7月26日～ 9月6日	公益財団法人 山形県みどり推進機構 (現指定管理者)	令和2年 4月1日～ 令和7年 3月31日



## 緑の募金

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、身近な環境の緑化から、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境教育など、さまざまな緑化活動に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 **山形県みどり推進機構**

理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265  
TEL 023-688-6633 FAX 023-688-6634

ご協力を  
お願いします



## 林業成長産業化地域創出モデル事業(最上・金山林業成長産業化地域)の取組み

# 『やまがた森林ノミクス産業展 in もがみ2019』開催

へ向けた中高層木造建築の現状  
と今後の展開)

⑤ 吉田美佳氏（次世代型林業サップ  
ライチエーンの最前線）

11月24日(日)から26日(火)までの

3日間、金山町及び新庄市を会場として「やまがた森林ノミクス産業展 in もがみ2019」が延べ2,000人以上の参加を得て盛大に開催されました。この事業は、「林業成長産業化地域」に指定された『最上・金山地域』の事業等を活用して実施したものです。

### ◆第1日目 24日(日)

金山町の農村環境改善センターを会場に、伊佐ホームズ株式会社の伊佐裕社長の講演会と高性能林業機械のメンテナンス等に関する研修会が行われました。伊佐社長の講演会では、木材をマーケットイン型産業として生産し供給するため、伐採から製品流通までをQRコードにより管理するト



高性能林業機械の研修状況



リティシステムに取組んだ経緯などが紹介されました。参加者は、最上地域や山形県で取り組めることは何か、あらためて考える契機となりました。午後からの高性能林業機械のメンテナンス等の研修は、実際に機械を見て触れる実践的な講義となりました。

◆第2、3日目 25、26日

新庄市「ゆめりあ」を会場に、県内外36の事業者による展示会やセミナー等を開催する産業展を25日、26日の両日開催されました。開催にあたり、来賓の小島東北森林管理局長や管内各市町村長、産業展実行委員長の須藤最上総合支庁長らによるオープニング式典が行われました。参加者や出展者は、早速各ブースを回りながら名刺交換を行い、質問等に答えていました。



会場イベントのかわきりとして、紹介されました。参加者は、最上地域において開催した産業がた森林ノミクスの今後の目指すべき方向性等について意見交換を行い、会場内では、2日間で合わせて5つのセミナーが開催され、大勢の参加者が、木材利用の最新の動きなどの話を熱心に聞いていました。

- ① 米田雅子氏（林業界と産業界の連携による森林再生）
- ② 小柳雄平氏（都市と山村を結び森を育むプラットホーム）
- ③ 杉本洋文氏（地域を豊かにする木造建築とは！）
- ④ 松崎裕之氏（国産材の需要拡大



◆今後の展開

本県の森林ノミクスをけん引している最上地域において開催した産業展を、単なるイベントとしてとらえるのではなく、豊かな森林資源を活用した新たな産業に結び付けていくことが重要だと考えていま

す。この産業展を契機に、事業者間の新たな連携が生まれ、最上地域、ひいては本県の森林ノミクスが益々発展していくことを目指し、関係機関との連携を深めていきたいと考えております。

〔最上総合支庁森林整備課〕

# 特集

## 林業事業体の経営体質強化を図る研修会について

### ◆はじめに

今年度から施行された森林經營管理法（新たな森林經營システム）では、県は市町村に対し經營管理に關し必要な助言や指導、情報提供、その他の援助を行うことが記されており、これまでの特集では県の市町村への支援を紹介してきました。

また、この法律では、「県は、林業經營者に対し、經營管理実施権に基づく經營管理を円滑に行うために必要な指導及び助言を行うものとする」と記されています。

今回の特集では、森林經營管理法で具体的な森林整備と經營管理を担う森林組合等の林業事業者に対する県の取組みについて紹介します。

### ◆林業事業体体質強化研修会

県では、「新たな森林經營システム」の受け皿となる「意欲と能力のある林業經營者」の育成に向けて地域の林業事業体等の体質強化を図る研修会を開催しています。



研修会は、「やまがた森林ノミクス産業展 in もがみ2011」として、11月24日（日）に金山町農村環境改善センターで「高性能林業機械を活用した林業イノベーションの今後の展開」と題して開催しました。

技術研修では、林業機械の事故事例を紹介するとともに、機械使用時の事故を無くし作業の効率化・省力化を図るため、しっかりと点検・メンテナンスを行うことが重要であることが説明されました。

また、屋外研修では、ハーベスター やワインチ付きグラップル、林内運



県では、高性能林業機械導入の補助事業などによる支援も行っていまので、林業事業体の皆さんには「意欲と能力のある林業經營者」として、地域の林業を支えていただくことを期待しています。

※ (株)レンタルのニッケンでは、ビジネスネーム制度を取り入れており、社員全員が仕事用の名刺を持っています。

### ◆意欲と能力のある林業經營者の公募・公表について

新たな森林經營システムは、森林所有者自らが經營・管理できない森林について、適切な經營管理の確保を図るため、市町村が仲介役となつて森林所有者と「意欲と能力のある林業經營者」をつなぐ仕組みとなっています。

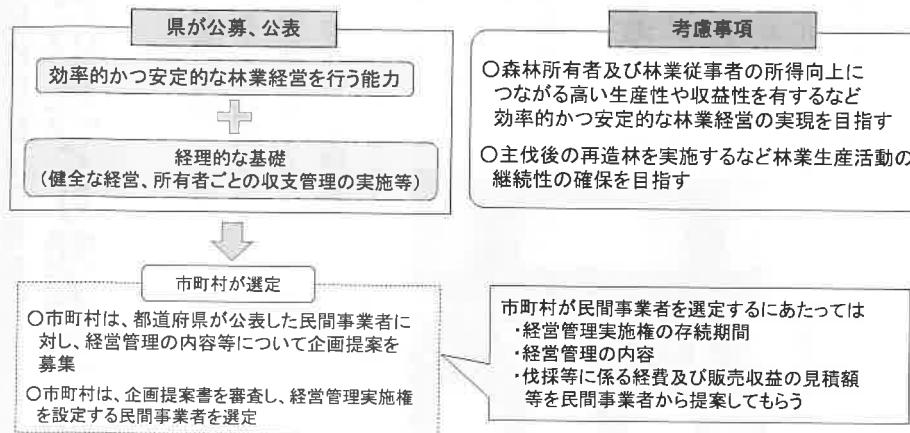
研修会では、株式会社レンタルのニッケン営業本部林業部部長の※応縁団太郎（本名・若松功一）氏を講師に迎え、労働災害防止のための林業機械のメンテナンスなどについての技術研修を行った後、高性能林業機械等のメンテナンスについて屋外研修を行いました。

高性能林業機械の導入は、生産性の向上や重労働の軽減、労働災害の撲滅につながります。そして、常日頃のメンテナンスをしっかりと行い、安全で効率的な作業に取組むことが収益を生む事業体の経営体制強化につながります。

搬車を会場に準備し始業前点検、メンテナンスのポイントを中心に指導をいただきました。

県は、市町村からの林業経営の再委託を希望する民間事業者を「意欲と能力のある林業経営者」として公募し、県の定める基準に適合する者を公表（リスト化）することになります。市町村は森林所有者から

- ▶ 県は、森林經營管理法に基づき、「經營管理実施権」の設定を受けることを希望する民間事業者を公募
- ▶ 効率的かつ安定的な林業經營を行う能力を有するなどの要件に適合する民間事業者のリストとその応募内容の情報を公表



預かった森林を再委託する際は、この公表されたリストの中から委託先を補完する形で、長期・安定的に林業經營体等に木材を供給するとともに、国産材の需要も、國有林では、民有林の取組を補完することになります。

一方、国有林では、民有林の取組を補完する形で、長期・安定的に林業經營体等に木材を供給するとともに、国産材の需要も、國有林では、民有林の取組を補完することになります。

拡大に向けた川上から川下の需要者との連携強化を図るために、国有林野の經營管理に関する法律等を一部改正し、令和2年4月から施行することになっています。この中の「国有林野の管理經營に関する法律」では、国有林の一定区域において、一定の期間、安定的に樹木を伐採・採取できる権利（樹木採取権）を、民有林材の供給を圧迫しないよう、木材需要の拡大を行う川中・川下事業者との連携を条件に「意欲と能力のある林業經營者」に設定することができ

ることになっています。

このことから、市町村からの再委託や国有林野事業への参入（入札）を考えている林業事業体は、「意欲と能力のある林業經營者」への申請を検討してみてはいかがでしょうか。

本県の今年度の「意欲と能力のある林業經營者」の募集については、第1回の公募は終了していますが、第2回の公募を1月14日から2月14日まで行いますので、申請の手続き等については県のホームページをご覧ください。

### おわりに

県では、今後も新たな森林管理システムの円滑な実施を推進するため、各種研修会の開催等を通して、林業事業体等の人材育成に努めて参ります。

### 国有林野の管理經營に関する法律等の一部を改正する法律の概要

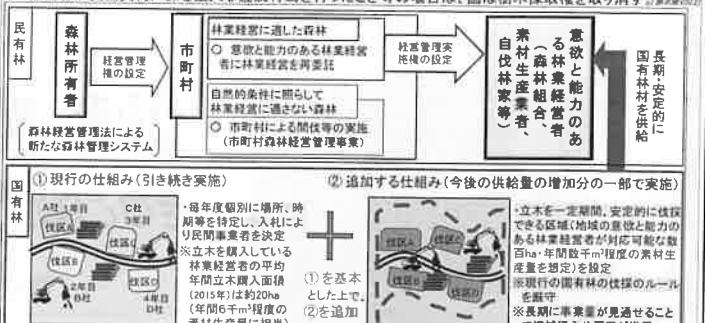
#### 背景

- 森林經營管理法による新たな森林經營システムでは、經營管理が不十分な民有林を意欲と能力のある林業經營者（森林組合、素材生産業者、自伐林家等）に集積・集約することとしたところ。
- このシステムを円滑に実施し、意欲と能力のある林業經營者を育成するためには、安定的な事業量の確保が必要であり、このためには、民有林を補完する形で、国有林が長期・安定的にこうした林業經營者に木材を供給することが有効。
- ⇒ 今後供給量の増加が見込まれる国有林材の一部について、公益的機能の維持増進や地域の産業振興等を目的に、現行の入札に加え、一定期間・安定的に原木供給できる仕組みを抜粋する必要。
- ⇒併せて、川上側の林業と木材の需要拡大を行う川中・川下側の木材関連産業の連携強化を進めるための環境整備が必要。

#### 改正の概要

##### 1 国有林野の管理經營に関する法律の改正

- 国有林の一定の区域において、一定の期間、安定的に樹木を採取（伐採）できる権利を、民有林材の供給を阻害しないよう、木材需要の拡大を行う川中・川下事業者との連携を条件としつつ、意欲と能力のある林業經營者に設定できるようにする。(第4条の4、第8条の12)
- その後、国有林野の公益的機能の維持増進等を図るため、権利を設定された者（権利者）は、5年ごとに、樹木の採取の具体的な条件等について、現行の国有林の伐採のルール（箇所毎の伐切上限面積、保残率の設置等）に適合した契約を国と締結する。加えて、国は、権利者に樹木採取と再造林を一括りに行うよう申し入れることとし、再造林が適切に行われるようにする。(第4条の14、第8条の15)
- 権利者が実施契約に係る重大な違反行為を行ったとき等の場合には、国は樹木採取権を取り消す。(第8条の16)



##### 2 木材の安定供給の確保に関する特別措置法の改正

- 川上事業者、川中事業者及び川下事業者が、共同して木材の安定的な取引関係の確立を図る事業に関する計画（事業計画）を作成し、知事等の認定を受けた場合、独立行政法人農林漁業信用基金（信用基金）による金融上の措置（債務保証及び低利の資金融通）を講ずる。

##### 3 独立行政法人農林漁業信用基金法の改正

- 2の措置を、信用基金の目的規定において位置付けるとともに、当該措置を同基金の業務として追加。

## 「やまがたの森づくり発表会」を開催しました

### ◆はじめに

県は「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動を広く県民の皆さんに発信し、県民参加の森づくりを推進するため、活動発表会を開催しています。今年は、11月23日（土）に、山形国際交流プラザ山形ビッグウイングで行いました。

### ◆ポスター発表・

#### ワークショップ

県内全ての「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」実施団体、市町村及び「やまがたの森づくり」参画企業・団体（計142団体）がそれぞれの取組みについてポスターを展示し、参加者同士で情報交換をしました。

また、ワークショップとして木のスプーンづくり体験を行い、子どもから大人まで、多くの人で賑わいました。

### ◆活動発表・講演

歴史の道土木遺産萬世大路保存会、NPO法人虹のネットワーク、山形ゼロックス株式会社、鶴岡市の計4団体に日頃の森づくり活動について代表発表していただきました。

続いて、「木育で『山形LOVE!』」

と題して、岐阜県の共育工房IPPON（いっぽん）主宰する福島計一氏に講演をいただき、「木育」を通して郷土愛を育むことが、地域の振興や過疎対策につながるというお話がありました。



会場の様子

講演の様子

### ◆おわりに

当日は、約150名の方が参加し、森づくり活動の活性化につながる大変有意義な会となりました。県では取り組む森づくり活動に対し積極的に支援してまいります。

〔県みどり自然課〕

## 森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

## （一財）日本森林林業振興会 秋田支部 Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林つくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村 大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49

TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 木村 大助

〒990-2473 山形市松栄1-5-41



「山菜・きのこ」を食べて健康生活！  
きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

## 山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎ 023-688-8100

## 目標に向かつて思いを新たに

### ◆はじめに

12月に入つて、農林大학교才治沼実習林もようやく冬化粧をし始めました。今回は、学習に励む1年生と卒業まで残すところ3か月となつた2年生の様子をお伝えします。

### ◆実践へのステップアップ（1年生）

入校して早くも9カ月。チエーンソーから始まり、刈払機、ミニバッカホウ、高性能林業機械と資格を得。講義も、主要な樹木の種類や生態、植栽から間伐までの造林・育林の方法、木材の性質や利用方法といった林産分野、山菜やきのこ等の特用林産物、林業機械の種類や活用方法、測樹やコンパス測量など、林業を行っていく上で必要な基本的知識について、現場での実習を交えながら学びました。チエーンソーや高性能林業機械の操作も日に日に上手になつて来ています。これから、講義・実習が実際の業務内容に近づき、ますます実践的な内容になつて行きます。先日、学校の体育祭が学科別対抗で行われましたが、林業経営学科はダンツツでの優勝を果たしました。今後

とも、アクティブでチームワーク抜群な性格を活かし、かつ安全に注意しながら学習に取り組んで行きます。



間伐実習(大蔵村)

### ◆卒業論文も終盤に入つて（2年生）

Time flies. (光陰矢のごとし)。2年生の胸中は今、そのような思いでいっぱいなのかもしれません。入校から1年と10ヶ月、この間、チエーンソーの取扱いに始まり、さまざま



卒業論文調査（間伐施行地：真室川町）

◆令和2年を迎えるに当たつて1年生、2年生ともに新たな目標に向かって進もうとしています。将来の森林・林業、木材産業を担う人材育成に、引き続き皆様からの御指導をお願いいたします。

### 東北みちのくの珍味

### トンビマイタケ菌床 まい た け 榛木

庭先でも栽培できます。



—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757

山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2

**株式会社  
河村式種菌研究所**

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)  
FAX 0234(42)1124

通して、国際感覚も育んできました。そして今、2年間の集大成となる卒業論文のとりまとめに忙しい毎日を送っています。広葉樹林の更新や作業システムなど、各学生が自分の課題を持ち、今年の3月から実習林や校外の森林において、猛暑や雨にもめげず調査を行つてきました。卒業論文を通して得られた課題解決能力は、今後の卒業後の進路において大いに役立つものと期待しています。



みどりのページ

## 東北・北海道地区の緑化 功労者表彰 奥山彰敏氏

10月10日に岩手県盛岡市で開催された東北・北海道地区緑化推進協議会において、緑化功労者表彰式が行われ、各道県から7団体・個人が表彰されました。本県からは、

奥山彰敏氏（上山市）が表彰されました。奥山彰敏氏（上山市）が表彰されましたので、ご紹介します。



表彰を受ける奥山氏

会長として、森林環境教育の普及啓発に引き続きご尽力されています。

飯豊町の源流の森では、源流の森整備され、平成24年からは、源流の森長として、協会の円滑な運営にも大きく貢献されています。

また、NPO法人美しいやまがた森林活動支援センターの理事にも就かれ、特に、「やまがた絆の森事業」の1つである「イオンの森」において、

中心的な指導者として森づくり活動を実践されています。

平成29～30年度には、村山総合支庁が設置した「むらやま版・木育推進協議会」の委員に就任され、数多くの木育プログラムを企画して、村山地域における木育の推進にも大きく貢献されました。

奥山氏の功績に心から敬意を表すとともに、今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

奥山氏は、平成13年に山形県森林インストラクター会に入会され、県内各地で子どもたちをはじめ多くの県民に対して、フィールドワークを中心とした森林環境教育を実践されてきました。豊富な経験と確かな指導技術、温厚な性格などから周囲の信頼も厚く、平成27年からは同会の会長を4年間務められました。現在も副

## 郷土の名木・古木等保全事業の実施について

郷土の名木・古木等保全事業は、県または市町村指定天然記念物の樹木を対象に、県内の樹木医の方々からも厚く、平成27年からは同会の会長を4年間務められました。現在も副

です。今年度採択された4件の樹木のうち、上山市指定天然記念物「竜沢の桜」の保全作業が実施されましたので、概要をお知らせします。



ロープワークによる作業の状況

竜沢の桜は、上山市西部の山あい、竜沢地区にあるエドヒガンの大木で、平成20年10月に市の天然記念物に指定されました。推定樹齢は310年で、上山藩主松平信将公御手植とも伝えられ、住民有志が「竜沢の桜を守る会」という保存会を組織するなど、地域のシンボルとして地元の方々から大切にされてきました。

はじめ、同会からは、ウソによる被害で花数が減つてきているということで、本事業への申込がありました。担当樹木医2名による診断の結果、樹冠上部の枝に多数のホザキヤ

ドリギが寄生していることがわかり、衰弱要因の1つと考えられました。ホザキヤドリギは、オオバヤドリギ科ホザキヤドリギ属の落葉小低木で、ミズナラやサクラ類等の落葉広葉樹に寄生します。その名のとおり、花は穗状花序につき、秋には果実が黄色く熟します。ビヤクダン科ヤドリギ属の常緑低木であるヤドリギとは全くの別種です。



除去されたホザキヤドリギの果実

本事業では、このホザキヤドリギの付いた枝を伐採することとなりました。樹高20メートルを超える大木であることから、作業はロープワークによるツリークライミング技術を駆使して行われました。伐採された枝を見ると、ホザキヤドリギが寄生した部分はこぶ状に肥大しており、



みどりのページ

P.O. 法人 斜平山保全活用連絡協議会  
(米沢市) がこの事業に  
取組んでいますので、ご  
紹介します。

同会は、米沢市郊外の

正常な伸長が阻害されている様子が  
観察されました。

50万円という助成金の上限もあり、  
寄生された枝の伐採のみ行われまし  
たが、樹木医の診断カルテでは、土  
壌改良等の必要性も指摘されました。  
今後も、地元の方々による管理に加  
えて、診断に沿った保全措置が行わ  
れることが期待されます。

## 子どもたちの未来の森づくり 事業の取組みについて



植樹会の状況

そのうち、都道府県緑化推進委員会推薦事業である「子どもたちの未来の森づくり事業」は、小中学生の「森の学び」を支援するとともに、森林環境教育のフィールドとして地域のシンボルとなる森づくりを行うものです。今年度、本県からは、NPO法人斜平山保全活用連絡協議会（米沢市）がこの事業に取組んでいますので、ご紹介します。

斜平山を主なフィールドとして、植林や登山道整備などの活動を行っています。8年ほど前からは、松枯れ被害跡地においてブナ等の植樹に取組んでおり、今年度は昨年度に引き続き、本事業を活用して実施されました。ブナ苗の植樹会は、10月6日、14日には会員らによるアベマキやカツラの植樹も行われ、未来の子どもたちが森林を学ぶフィールドとなることが期待されます。

〔(公財)山形県みどり推進機構〕

## 緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま(R1.10.1~11.30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

(株)安部組、(有)荒井材木店、(株)石川測量事務所、衣袋建設(株)、(株)ウエノ、(株)ウンノハウス、(株)エスパワー、(株)エフエム山形、エムテックススマツムラ(株)、(有)遠藤建機、オビサン(株)、(株)柿崎建設工業、(株)カルイ、(株)菊地建設、北日本特殊イサベラ建設(株)、共和防災建設(株)、(株)クネット東北、(株)クリーンシステム、(株)黒田組、(株)ケンコン、(株)幸輪、小白川建設(株)、(株)斎藤板金工業所、(株)三洋、(有)三立、JA庄内たがわ、庄内環境緑化事業(協組)、庄内環境衛生事業(株)、(株)荘内銀行、(株)庄内測量設計舎、森林研究・整備機構森林整備センター山形水源林整備事務所、すずき看板、スズキハイテック(株)、(有)西部サッシ、大金電子工業(株)、(株)大和、(株)高橋組、(株)高橋工務店、(株)丹野、中央公害清掃(株)、(有)ツチヤクリーン、角田商事(株)、(株)テトラス、天童ロータリークラブ、(株)でん六、東光計測(株)、東北クリーン開発(株)、(株)東北工材、東北興産(株)、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)トプロン山形、ナブテスコオートモーティブ(株)、(株)ナルセ、日産マイカーランド(株)、日東ベスト(株)、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山形支店、(株)パスク山形支店、(株)ピンテック、ファイン精密(株)、藤庄印刷(株)、ブレンスタッフ(株)、(株)マイスター、(株)丸吉奥山組、(有)丸三製材所、丸長製材(株)、ミドリ鮭川工業(株)、(株)メコム、(株)最上金属、モガミフーズ(株)、本沢郵便局、(株)矢作組、(株)山形一進社、(株)山形銀行南山形支店、山形健康管理センター、(公社)山形県畜産協会、(一社)山形県土地改良建設協会、山形県緑を育てる女性の会、山形航空電子(株)、山形商工会議所、山形森林管理署最上支署、山形設計(株)、山形中央観光(株)、山形電子(株)、(株)山形ビルサービス、山形放送(株)、(株)山口工務店、山建工業(株)、(株)ヤマムラ、(株)山本製作所、米沢中央ライオンズクラブ、米沢ライオンズクラブ、(株)ライナー、(株)ラムダ、(株)理研分析センター、(有)渡辺商店

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

# 次世代林業サプライチェーンの最前線

秋田県立大学木材高度加工研究所 特任助教 吉田 美佳

していこうとする姿勢が、企業の競

次世代社会とは何か

次世代社会のキーワードは

『持続可能』、『循環型社会』

です。気候変動の影響と見られる自然災害が多発し、経済活動に対しても環境や社会に対する責任が問われ、経済性を保ちながら環境、社会をよくするために実効性のある改善策が求められるようになります。

実効性のある改善策というのは、具体的にはシェアリング、削減・再利用、二酸化炭素抑制・削減という観点から、森林・海洋・農産物資源をデジタル、ロボット、バイオテクノロジーの活用などによって革新的な形で使っていくこと、を意味しています。

林業にはまだ波が来ていませんが、世界的にはこれらの技術開発や取り組む企業に投資の波が押し寄せており、ビジネスの中で社会課題を解決

争力になるという新しい潮流が生まれつつあります。

## 次世代型産業のコンセプト

次世代型産業のコンセプトとして、情報通信技術（ICT）を利用した標準化とプラットフォームの整備、イノベーションによる新たな製品や技術の開発が共通認識になつてきました。本稿では、標準化とプラットフォーム整備の観点から、林業サプライチェーンの次世代を概観します。

## プラットフォームとは

プラットフォームとは、人と人をつなぐ場所のことです。サプライチェーンの中のプラットフォームは、買いたい人と売りたい人をつなぐ場所となります。これまでの林業では、たとえば素材生産会社と製材会社など、物流でつながる会社同士が市場などの物理的なプラットフォームを通じてつながってきました。このプラットフォームを拡張することが次世代型林業の入り口で

## 林業プラットフォームの役割

林業プラットフォームの役割は、未利用木材のマッチングと、物流最適化の2つだと考えます。これらを果たすためには、プラットフォームに多くの参加者を募らなければなりません。多くの参加者を募るには、

透明性、品質保証、すぐに始められるというハーダルの低さが重要です。そのため、データ規格と通信の標準化が必要不可欠です。

プラットフォームへの容易なデータ送信は、根本的には事務作業の省力化であり、間接費削減と時短化に貢献し、収益性UPと働き方改革、そしてイノベーションにつながる可能性があります。

## 次世代型サプライチェーンの概念

それでは、情報共有を伴うサプライチェーン（以降、簡便のため次世代型サプライチェーンとします）はどのようなものでしょうか。従来型サプライチェーンと次世代型サプライチェーンの概念を図1に表します。

す。たとえば森林所有者とハウスメーカーなど、林業物流の両端にいる者同士でも売買ができるようになります。現状、林業機械で取得できる

情報は材積、径、長さで（写真1）、データ規格と通信の標準化には林業機械に搭載されるICTが役に立ちます。現在、林業機械で取得できる



写真1 最適採材の画面

従来型サプライチェーンでは、市場での検知によって需給マッチングが行われてきました。近年では、多品種を扱える大型製材所の出現により、従来型サプライチェーンの改良型である直送システムも発達し、市場での荷の積み下ろし等がなくなるため、輸送費用と中間経費の削減が期待できます。

### 次世代型サプライチェーンの特徴

一方、次世代型サプライチェーンの特徴は、長期間の需給契約と情報集積のためのデータセンターです。ハーベスターでの造材時における需給マッチングはより正確に言うと、長期需給契約を交わしたうえで、データセンターに送られた需要情報と高性能林業機械によって取得した生産情報に基づいて、伐採計画や採材方針、配送計画を最適化するということです。所有林分や購入立木の状況に応じて、価格と品質、また需要場所の異なる複数品目について（写真2）需給契約を交わすことで、林分状況に応じて価値を最大にするSCMを構築することができます。

**日本での適応**

最大価値採材を行うためには、リアルタイムの需要情報と供給情報が必要であり、これにはサプライチェーンの川上から川下までの関係者が情報共有に同意している必要があります。最適化は規模が大きく、期間が長くなるほど難しくなりますが、一方でその恩恵も大きくなります。裏を



写真2は、最適採材用の価格テーブルのスクリーンショットです。画面には直径分類（140, 160, 180, 200, 220, 240, 260, 280, 300, 320, 340, 360, 380, 400, 420）と各直径に対する価格が表示されています。価格は、直径によって変動する形で示されています。また、画面下部には「価格: 0」「割引: 0 (初期値)」「割増: 0 (割増なし)」「玉切り条件: 正常」というメッセージがあります。

写真2 最適採材用の価格テーブル

返せば、規模や契約期間が小さければ恩恵は少なく、システムを導入しても導入費用の方が高くついてしまう可能性もあります。したがって、日本において現実的かつ、効果的な規模や契約期間を摸索する必要があります。また、システムは日進月歩であり、低廉なシステムを探していくことも重要です。

おわりに  
林業は地域に根ざす産業ですが、木材は国際競争下にある商品です。サプライチェーンの上流と下流にあらざつフォーム作りを進めることができます。『持続する循環型社会』作りに貢献するような、次世代林業推進の道の一つであろうかと思います。

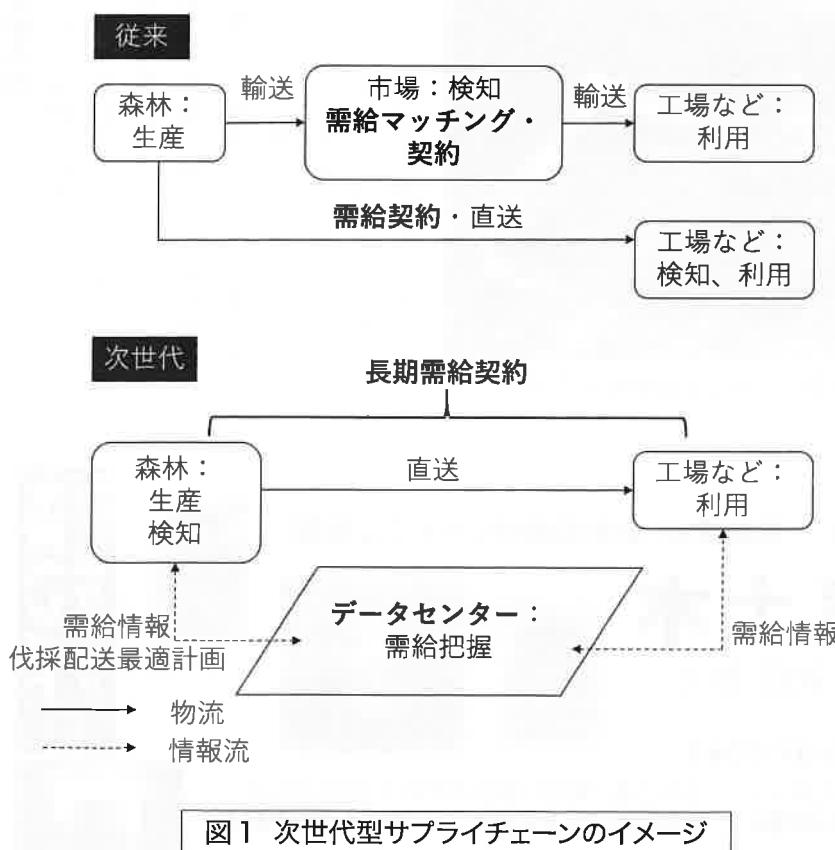


図1 次世代型サプライチェーンのイメージ

## 普及情報

# 森林技術者等技術向上(ＩＣＴ・低コスト化) 研修会の開催について

### ◆はじめに

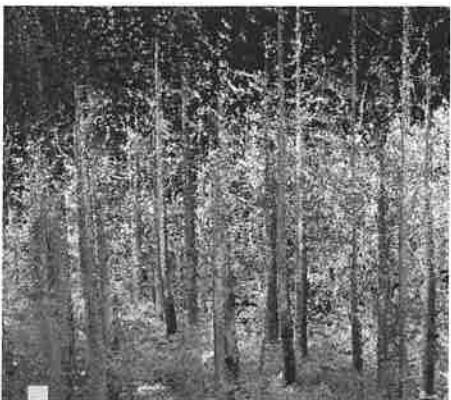
林業は、自然状況等に左右され収穫まで超長期を要する産業であり、今後の更なる労働力不足と木材需要拡大への対応が懸念されています。

林業労働力を安定的に確保するには、労働安全性の向上や森林施業の効率化・省力化が不可欠です。また、木材需要の拡大に対応していくには、デジタル情報やＩＣＴ、機械等の先端技術を活用した「スマート林業」の実現が必要となってきます。

そこで、ＩＣＴを活用した森林情報の整備や機械による地拵え等による低コスト造林に関する研修会を行いましたのでご紹介します。

### ◆研修会の状況

#### ○地上型レーザーを用いた森林資源のデジタル化と活用(ＩＣＴ研修)



データから作成した森林

#### ○大型レーキによる低コスト地拵え(低コスト化研修)



大型レーキによる地拵えデモ

### ◆おわりに

今回、多くの方から参加いただき、ＩＣＴや機械等の先端技術を活用したスマート林業への関心の高さが窺えました。

今後もスマート林業に関する研修を行っていきますので、ぜひご参加ください。「森林研究研修センター」

### 研修内容

航空・ＵＡＶ・地上の各3Dレーザースキャナーについて説明を受けた後、地上型レーザーによる測定方法やデータの活用方法について、実際の測定データにより作成した森林画像やデモ映像等を用いて説明いたしました。参加者からは、経費の面やデータの活用方法等について多くの質問や意見が寄せられました。

今回の取組（研究）の背景や大型レーキの構造等について説明した後実際の作業を見ていただき、レーキの製作や作業に携わった事業者からの感想等もお聞きしながら、参加者の皆様と意見交換を行いました。参加者からは、このように改善すればもっと良くなるのではなど、活用に前向きな意見が多数寄せられました。

### 研修内容

一般社団法人 山形森林調査協会	副会長 早坂 紘史 氏
講 師	協同の杜ＪＡ研修所

日 時	11月8日10時～12時
場 所	協同の杜ＪＡ研修所

講 師	林業事業体等職員49名
-----	-------------

地域の暮らしをしっかりバックアップ!!

総合電設業、木質燃料製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業

# (株)渡会電気土木

代表取締役社長 武田 啓之

本社／鶴岡市下山添字一里塚36

☎0235-57-2454代 FAX 0235-57-2345

環境事業部・田代工場／鶴岡市田代字広瀬16-2

☎0235-57-4778代 FAX 0235-57-4786

庄内工場／東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

☎0234-28-8288代 FAX 0234-28-8287

営業所／酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力工事事務所



木質ペレット  
あります!!



## 森の人紹介

子ども達に  
自慢できる森林を

伊藤和実さん



今年の春

に青年林業士に認定された株式会社荒正の伊藤和実さん

をご紹介します。

伊藤さんは荒正の林業部・工務課長で、主に林産事業の現場を統括しています。以下インタビュー形式。

▼これまでの経歴をお聞かせ下さい。

△もともとはトラックを運転する運送業に勤めていました。その時、荒正勤めの今の上司に声をかけてもらつて、平成22年に入社しました。最初は解体や土木関係の仕事を任されていて、まさか、森林の作業路づくりや木材搬出を仕事にするとは思つていませんでした。

▼青年林業士になつていかがですか。

△農林大学校のオープンキャンパスに参加して、森林関係の仕事を話していました。熱心な生徒さんが沢山いたので、若い人にもっと多くの森林

関係の仕事についてもらいたいと思ひます。行政への注文というわけではないですが、どうやつたら山で働くか「知らない」という人が多い。そこら辺の周知活動があると良いと 思います。

▼仕事も忙しいのに、各種研修会へ積極的に参加されていますが、その思いは。

△経験の無い会社が林業に参入しました。最初は分からぬことだらけで、勉強しないと仕事にならなかつたから、県の研修会は本当にありがたかった。今でもその思いは変わりません。当社は経験年数の浅い人が多く、安全面には特に配慮する必要があるので、研修会は今でも大切にしています。

▼最後にこれから抱負など

△山で働いてくれる人が増えてもらいたいと思います。少しでも、そのお役に立つていただきたいと思います。

自分は山形で育つてきて、今、その地域の森林づくりを仕事にしているわけです。自分の子供たちに将来、自慢できる森林を残していきたいと 思います。

〔村山総合支厅森林整備課〕

## 森の人紹介

山菜・きのこ料理の名人  
遊学の森案内人

星川千枝子さん



金山町の

山形県遊学

の森で案内人として活躍されている星川千枝

子さんを紹介します。

星川さんは、金山町在住で、地元の遊学の森にて案内人会会長である星川隆弘さんと夫婦で、案内人会の創設時から活動されております。

星川さんは地元の山菜・きのこに精通しており、案内人の活動において、旬の食材を活かした料理の紹介などを得意分野としております。

特に天然物の山菜・きのこは、採取可能な時期が限られており、その旬の食材を活かした料理は、遊学の森常設プログラム実施時や、イベント開催時などに提供されており、利用者からは「作り方を教えてほしい」、「また料理を食べに来たい」といった声があり大変好評です。

内人養成講座」において、森の恵みを味わう講座として講師を務めている山菜の活用法について、ご指導いたしました。

全国トップクラスであり、自然との共存の中で先人から受け継いできた食べ方や調理方法などの食文化を伝承していく必要がありますが、星川さんはその重要な一役を担つております。

今後も星川さんの活躍に期待したいと思います。



山の恵みを活かした料理の数々

## 西山杉とともに生活する

### 「西山杉を巡る見学ツアー」

村山総合支庁では、西川町、大江町、朝日町の三町から生産されるブランディング材「西山杉」の需要拡大を図るため、西川町を会場に西山杉を巡る見学ツアーを開催しました。

コンセプトは「西山杉とともに生きる」。日常生活を送る住宅から、保育園、小学校などの公共施設や地域の歴史的建造物、さらには、地元授業を受けていました。



岩根沢三山神社の大黒柱

西川小学校のシンボル

製材所や再造林地を見学コースとし、西山杉と地域がともに歩んでいる様子がうかがえるコースを設定しました。

### 歴史を今に繋げる

見学した西川小学校は、平成24年に開校し、全児童197人の統合小学校です。昇降口を抜けると、本道寺湯殿山神社から切り出された樹齢340年を超える大杉の大黒柱を見ることができます。西山杉をふんだんに活用した教室では児童たちが伸び伸びと授業を受けていました。

岩根沢三山神社は、度重なる火災の後、1841年に再建された国指定重要文化財です。大晦部屋には、八角形の大黒柱があり、その周囲は3メートルで高さ16メートルあります。参加者からは、「小学校と岩根沢三山神社の両大黒柱を見て、西山杉の歴史が今に繋がっているようだ」との感想をいたいでいます。

村山総合支庁では、ツアーランディング結果を踏まえ、地域のブランドである西山杉の利活用を図るとともに、様々な機会を捉えてPRに努めています。

[村山総合支庁森林整備課]

## おもてなしの心で 「西山杉製サイクルスタンド」

11月15日に西山杉でできたサイクルスタンドの第1号が、蔵王温泉の「立ち寄り温泉源七露天の湯」に設置されました。

蔵王温泉では、昨年度から蔵王温泉街通りを美しい温泉街らしい街並に再生するため、蔵王温泉観光協会、山形大学東北創生研究所、山形工科短期大学校、西山杉利活用推進コンソーシアムによる「蔵王温泉木の街プロジェクト」を進めています。

今回の木製サイクルスタンドは、今年度のプロジェクトの打ち合わせのときに、木質化による温泉街の景観対策のほかに、木材を活かして何かできないか検討している中で、「近年ロードバイクで蔵王温泉に来る方が多くなってきている」「ロードバイク利用者の利便性向上ができるのか」という意見が出され、「サイクルスタンドを温泉街に設置してはどうか」との話になり設置に向けた検討を行うことになりました。

その後、試作品の製作、改良を経て、10月28日に10基が蔵王温泉協会

に納品され、設置場所を募集した結果、最初に源七露天の湯に設置されました。残りの木製サイクルスタンドについては、雪解け後、日帰り入浴施設や飲食店などに設置、活用されることです。

この木製サイクルスタンドは、木組みで作られており、一般的な金属を用いたサイクルスタンドと比べ温泉の成分の影響を受け難いことから、温泉地に適しています。

蔵王温泉木の街プロジェクトでは、今後も、観光客の利便性向上や木質化による景観向上など、おもてなしの心と、木の持つ温かみで蔵王温泉と村山地域の林業木材産業の活性化を進めていきます。

[村山総合支庁森林整備課]



西山杉製サイクルスタンド

県産きのこのたぐなる品質向上を目指して逸品が集結！

## 第33回山形県きのこ品評会開催

◆きのこ生産者の逸品が集結

令和元年11月28日(木)から29日(金)の2日間、第33回山形県きのこ品評会が、新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」を会場に開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上を図るとともに、生産意欲の高揚を図ることを目的として山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。今年も県内各地から、主要7品目の見事なきのが出品されました。

◆農林水産大臣賞は加藤正弘さんに  
1日目に開催された審査会では、森林研究研修センター鈴木良幸所長を審査委員長とする13名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われました。審査の結果、主な受賞者は次のとおりとなりました。

【農林水産大臣賞】  
加藤 正弘 氏(大蔵村)  
生しいたけ(菌床栽培)  
【林野庁長官賞】  
松井 健一 氏(鮭川村)  
なめこ(ビン)

【山形県知事賞】

木村 勇智 氏(最上町)

まいたけ(菌床栽培)



審査の模様

◆もがみ薪プロジェクト推進事業

最上総合支庁では平成29年度から「もがみ薪プロジェクト推進事業」を実施しており、薪等利用拡大に向けた実態調査、情報提供、各種研修会を開催してきました。これまでの調査で、薪ストーブユーザーから「伐採した材を運び出すのが一番大変だ」「個人でも利用できる集材機材について知りたい」という要望があり、

今年度、主に薪づくりや自伐型林業に取り組む個人を対象に、小型の機材を利用した伐倒木の集材・搬出研修会を開催しました。

### ◆集材・搬出研修会

開催日は昨年10月26日、会場は大蔵村清水の県営林内。案内を最上地

のほか、出展されたきのこの展示・即売会が行われ、瞬く間に完売となる盛況ぶりでした。次回も、より多くの生産者から出品していただき、栽培技術の高さを披露していただきたいと思います。

県では、県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進してまいります。研修は、ポータブルのロー・ペイヴィ

地域で取組む木質バイオマス熱利用促進  
集材・搬出研修会を開催しました

ンチと小型の林内作業車を用いた集材・搬出の方法を紹介するとともに、安全に作業するための基礎知識を学んでいきました。



参加者からは、「これまでずっと自己流でやってきたので、プロのやり方を見ることができた」「機材を紹介してもらえるのはありがたい機会だ」などの意見がありました。参加者にとって充実した研修会であったと思われます。

◆おわりに  
参加者からのアンケート結果から、改めて薪づくりや山林の維持・管理に取組む方が自力での集材・搬出方法を知りたい、改善したいという需要があることが分かりました。  
引き続き、薪づくりをしている方々のニーズに応えられるように取り組んでいきたいと考えています。

【最上総合支庁森林整備課】

# 米沢市立三沢西部小学校緑の少年団

## ◆はじめに

米沢市立三沢西部小学校は、米沢市内で唯一緑の少年団活動を行つてゐる小学校です。平成4年から全児童が緑の少年団員として活動しています。同小学校のある米沢市田沢地区は、豊かな自然環境に恵まれた地区であり、「草木塔発祥の地」としても知られています。米沢藩の御料林を抱え、昔から林業がとても盛んなところであり、現在も森林は地区住民みんなの山として大切にされています。

令和元年度は、学年別に、緑の街頭募金活動や置賜地域緑の少年団ブロック交流研修会へ参加したほか、全員で森林学習やクラフト体験などに取り組みました。また、三沢西部小学校の緑の少年団の特徴的な活動の一つに2年に一度の足尾銅山での植樹体験があります。

## ◆「足尾銅山」での植樹体験

この取組みは平成17年から続いており、近年は2年に一度修学旅行の際に行っています。今年は9月26日に5、6年生8名が植樹体験を行い



植樹体験の様子

ました。今回は自分の身長を超える大きさの苗木を、全員で2本植栽しました。直径約70センチメートル、深さ約50センチメートルの穴を掘り、堆肥などを入れ苗床をつくつてから、苗木を設置。苗木が倒れないように添え木を3本打ち込み、最後にシカ除けネットを設置して終わりです。約1時間たっぷりと作業をしました。

いつも森林の中でたくましく元気に

足尾銅山の現状や植樹の取組みを知った田沢地区の方が足尾銅山に草木塔を建立しました。その際、緑の少年団の皆さんにもぜひ「当たり前にある森林の大切さ」について体験してほしいとの思いから活動が始まりました。

## ◆ホンモノに触れる

少年団員は足尾銅山跡のはげ山や、荒廃した森林がもたらした自然災害の悲惨さを現地の状況や写真などから学び、そして、実際の植樹を通して森林を育てることがいかに大変なことか体感しました。これは豊かな森林に囲まれて生活している少年団員にとって衝撃的な体験でした。森

林は地域の方々が大切に守り育ててきただもので、その恩恵により安全・安心な暮らしができていること、自分達もまたそれを引きついでいかない。

活動している少年団員ですが、苗木の重さや穴掘りなど力仕事が大変だったようです。

## ◆「キツカケ」は「草木塔」

なぜ、三沢西部小学校の緑の少年団員が足尾銅山で植樹体験をしているのか、そこには田沢地区の方の森林に対する思いが作り出した「キツカケ」がありました。それは「草木塔」です。

三沢西部小学校緑の少年団の活動には多くの気づきがあり、その積極性、協調力など大人も驚かされることがあります。これは田沢地区に脈々と受け継がれている森林に対する熱い想いと、小学校で大切にしているホンモノに触れる体験が礎となつていて、感じます。今後の三沢西部小学校緑の少年団の活躍にぜひご注目ください。

（置賜総合支庁森林整備課）

くてはならないことを実感し、豊かな森林のある田沢地区への郷土愛を一層強くしました。これらのこととは机上でも理解できることかもしれませんのが、実際に「見て・触れて・感じじる」体験と比較したらどうでしょう。三沢西部小学校では、「ホンモノに触れる」体験を重視しています。

# 令和元年度松くい虫防除研修会を開催

～行政の垣根を超えた松くい虫被害対策の実現を目指して～

## ◆はじめに

松くい虫被害は、「マツノザイセンチュウ（以下「線虫」と呼ぶ）」を「マツノマダラカミキリ（以下、「カミキリ」という）」が媒介することによって広がる、マツを枯らす伝染病です。庄内地方の松くい虫被害は、平成28年度をピークに減少傾向ですが、いまだに過去最大級の被害が継続しています。

松くい虫被害を蔓延させるため、被害の減少には、森林以外（道路敷や公共施設等）に生えたマツも含めた地域一体での被害対策が重要です。そこで今回は、従来の森林関係者に加え、高速道路管理者や公共施設管理者等も交えて防除対策の研修会を実施しました。

## ◆研修会の概要

○日時 8月22日13時30分～16時

○場所 北庄内森林組合酒田支所

○参加者 国関係者等（国有林、国交省、

分け方について、葉の赤変具合、松の標本や生きたカミキリを観察した

ネクスコ） 9名

県・市町関係者（森林、道路管理者等） 13名

林業事業体 7名 合計 29名

## ○講師

北庄内森林組合酒田支所

梅津 勘一氏（樹木医・松保護士）

## ◆研修会の内容

まずは、松くい虫被害の基本的な知識を学ぶため室内研修を実施し、

① 庄内のカミキリ羽化脱出は6月中旬～下旬頃であり、それまでにカミキリが潜む枯れ木を処理する必要があること。

② カミキリを確実に駆除するため、カミキリが潜む枯れ木は伐採するだけでなく、枝葉も含め全て破碎等の処理が必要であること。

③ カミキリは1回の産卵で翌年には約15匹に増えるため、カミキリが潜む枯れ木の9割以上を処理する必要があること

等を学びました。

その後、実際の松枯れ被害林へ移

動し、枯れたマツと健全なマツの見

分け方について、葉の赤変具合、松

の標本や生きたカミキリを観察した

かさの付き具合、樹液の流れ具合などから判定する研修を行いました。

こと、現地で実際に被害木を観察したことなどが、参加者の実感を伴った理解に繋がったようです。

## ◆終わりに

松くい虫被害は、個々の関係者がばらばらに対策を行つても、所管外から被害が流入したり、逆に他所管へ被害を流出させる危険があります。

そのため、関係者全員が正しい知識を持ち、地域一丸となって対策に取り組まなければなりません。



室内研修の様子



樹液流動の様子(左:健全木、右:枯れ木)

# 分収林造林契約の変更について

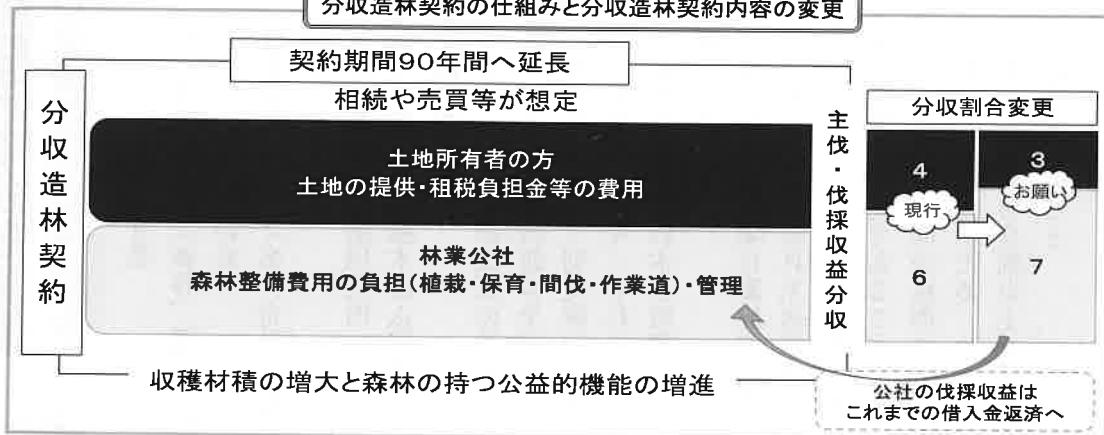
## ■契約者が変わられた場合

分収造林契約は、契約期間が長期に亘るため、相続や売買により土地所有者等の変更が発生します。土地所有者変更の手続きが適切に行われていないと、森林整備や分収金の支払いに影響を及ぼすことになりますので、当公社まで必ずご連絡をお願い致します。

## ■契約変更のお願い

現在、公社では木材価格の低迷による収益性の悪化から、施業の効率化や管理費の削減など経営改善に取り組んでいます。さらに、分収割合の変更（6対4→7対3）や、契約期間の延長（90年間）など土地所有者の方に契約内容の変更をお願いしています。公社では、現在の契約内容や申請書、届出についてご説明させていただいています。該当する方は公社からお知らせしていますので、ご理解のうえ、ご協力を願い致します。

## 分収造林契約の仕組みと分収造林契約内容の変更



## 住んでよし心ゆたかな木の住まい



株式会社 山形城南木材市場

木材事業部・住設事業部

〒990-2307 山形市表蔵王60番地の1

TEL. 023-688-2200 FAX. 023-688-2012 Email:jonan@mmy.ne.jp

## “美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします。

- 市町村の森林・林業行政の体制支援。
- 森林資源量調査。
- 森林GIS等、システム整備。
- 森林経営計画作成促進の支援。
- 路網整備の助言・指導。
- 関係団体とのマッチング。
- 森林境界の明確化。
- 森林情報の収集及び整備。
- 森林サイクルのマネジメント。



一般社団法人 山形森林調査協会

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1  
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233  
E-mail : yf@kfa.biglobe.ne.jp